

社会医療法人愛生会

上飯田リハビリテーション病院



各科データ

各科診療実績 2019年1月～2019年12月データ

▶ 入院実績

項目	件数
新規入院患者数	412
1日平均患者数	85.1
平均在院日数	76.9
在宅復帰率（70%以上）	84.7
入院時重症度（30%以上）	39.8
退院時回復割合（30%以上）	81.4
1患者平均リハビリ実施単位	7.6
実績指数（アウトカム指数）	41.5

▶ 通所リハビリテーション

利用実績	件数
利用件数（1ヶ月平均）	
クイック（1時間～2時間利用）	53
オーダー（3時間～4時間利用）	55
ベーシック（6時間～7時間利用）	60
利用延件数（1ヶ月平均）	
クイック	273
オーダー	332
ベーシック	460
介護度割合（%）	
要介護1	11
要介護2	33
要介護3	19
要介護4	10
要介護5	3
要支援1	6
要支援2	17
目標達成による卒業者（年間）	
クイック	8
オーダー	6
ベーシック	2
ベーシック	2

▶ 地域医療連携室

項目	件数
入退院支援加算件数	405
相談延件数	4,931
入院相談	808
背景要因	3
カンファレンス	1,749
家族	3
職業・住居	22
経済	31
退院支援（転院・入所）	372
在宅支援・維持（外来相談）	2
その他	24
退院支援（在宅）	795

▶ 栄養科

項目	件数
一般食	49,248
特別食（加算）	20,490
特別食（非加算）	14,722
濃厚流動食	4,173
通所リハビリテーション食数	5,422
入院栄養食事指導	130
NST 回診延べ患者数	126
栄養アセスメント件数	655

▶ 紹介患者数

紹介元医療機関名	件数
総合上飯田第一病院	94
名古屋医療センター	109
春日井市民病院	18
西部医療センター	6
大隈病院	36
東部医療センター	48
名古屋第二赤十字病院	7
名古屋大学医学部付属病院	6
愛知医科大学付属病院	11
その他の医療機関	58

上飯田リハビリテーション病院

院長 水野 正昇

特徴

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士による個別リハビリテーションや看護師、介護士のケアプランによるリハビリテーションを実施しています。

毎日の生活がリハビリテーションとなるように患者さま、利用者さまを中心に、様々な職種がチームとなり、自宅復帰、社会復帰、生活支援に取り組んでいます。

生活支援については通所リハビリテーション、短期集中リハビリテーション入院を行っています。

今後の目標

- ・地域医療連携の推進に寄与します。
地域の救急医療が円滑に機能するため、病状が安定した方を速やかに受け入れ、効果的なリハビリテーションを提供し、早期退院に努めます。
- ・安心、安楽な医療を提供します。
患者さま、利用者さま、地域住民のみなさまが安心して、リハビリテーション医療を安全に受けられるように、今まで以上に安全な医療の提供に努めます。
- ・法人内連携の強化
地域のみなさまが安心して、生活が継続できるように法人内連携の充実に努めます。

看護部

看護部長 森川 和美

特徴

身体の状態だけでなく、障害を負うことで変わっていく今後の人生に、全職員一丸となって総合的にサポートしていく事ができるよう、チームアプローチを実践しています。

そして、よりよい状態で、地域、社会、家庭に復帰していただけるよう、最善の看護・介護の提供に努めております。

施設基準：回復期リハビリテーション入院料1

看護：回復期リハビリテーション看護師3名

NST 専門療法士3名

介護：アセッサー 6名

今後の目標

基本方針

1. 患者のニーズに応じた、安全で安心な療養環境を提供する
2. 看護・介護水準向上のため、自己啓発・相互啓発に努める
3. 看護・介護職の専門性を自覚し、他職種との連携・チーム医療を推進する

目標

目配り・気配り・思いやりを持ち、安全で質の高い看護・介護を提供する

通所リハビリテーション

担当看護師長 中島 智子

➤ 特徴

利用者様の生活スタイルやご希望に応じたコースを選択していただくことができます。理学療法士・作業療法士・言語聴覚士による個別のリハビリを中心に看護師や介護士等と連携しながら、利用者様と目標を確認して取り組んでいます。利用者様やご家族様、ケアマネジャー、他のサービス事業者を含めリハビリの内容や進捗状況など情報共有する場としてリハビリ会議の開催を行っております。そこで利用者様における課題を再検討しながら統一したサービスの提供や支援をさせていただいております。

➤ 今後の目標

利用者様を積極的に受入れ、充実したサービスの提供に努めます。
自立支援に向けて取り組みます。

地域医療連携室

医療ソーシャルワーカー主任 佐藤 顕世

➤ 特徴

地域医療連携室は、看護師1名、ソーシャルワーカーが3名で生活問題の相談や各医療機関から転入院の相談を受けています。2019年の医療福祉相談の相談実績は、入退院支援加算の算定件数は405件、延べ相談件数は4931件、うち在宅退院に伴う相談延べ件数が2709件ありました。他院からの転入院の相談数は795件でした。学会発表は、第14回愛知県医療ソーシャルワーカー学会で発表し、優秀演題として表彰されました。

➤ 今後の目標

近隣の医療機関からの紹介数を増やし、紹介から転院までの日数の短縮に努めます。また、回復期リハビリ病棟の適応が困難な紹介や、亜急性状態である場合は、総合上飯田第一病院との連携を強化し、法人としての受け入れを実施できるよう、調整や相談をします。また、退院後の生活も見据えた支援と、回復期退院後の生活フォローはもちろんですが、今後は職業アセスメントを実施し、退院後の就労・復職支援を行います。産業医や人事担当者との連携を強化します。地域医療連携室では、院内はもちろん、地域からの様々な相談にも対応できるよう、多職種で連携し、問題解決を目指します。

リハビリテーション科

リハビリテーション科科长代行 石黒 祥太郎

➤ 特徴

施設基準：脳血管等リハビリテーション（Ⅰ）、運動器リハビリテーション（Ⅰ）

人 員：理学療法士31名、作業療法士26名、言語聴覚士11名

当科は主に回復期病棟入院中の患者さまに対し、最大限の回復を目指しリハビリテーションを提供。職員には生活期を含めた様々な経験を積ませ、広い視野で最適なリハビリテーションを選択、提供できるよう育成しています。

地域医療に貢献するため、市民向けにリハビリ講座も開催しています。

➤ 今後の目標

1. さらなる治療効果（退院時 ADL、実績指数）向上のため、人材育成・業務改善に努めます。
2. 患者さまやご家族に安心していただけるよう、引き続き入・退院支援の強化に努めます。
3. 地域医療に貢献するため、リハビリ講座の継続開催や法人内・外の連携強化を推進します。

栄養科

栄養科主任 藤田 寛子

➤ 特徴

各病棟に管理栄養士が在籍しており計2名、給食部門は全面委託しております。入院時に栄養に関する聞き取りをもとに栄養評価を行い、低栄養およびリスクのある患者さまを早期に発見し計画を立案します。その後も全患者さまの摂取状況・体重変化等を確認し、必要な患者さまにはBCAA飲料を負荷する等リハビリ効果を高める栄養管理を目指しています。定期的に行事食を実施し食事にも満足して頂けるよう努めております。

➤ 今後の目標

- ・患者さま個々に合わせた栄養管理を提供する
- ・再発を防ぐために入院中・退院後前栄養指導を実施する
- ・給食満足度の向上に努め続ける

薬剤部

薬剤部 竹川 真由美

▶ 特徴

適正な薬物療法を支援する為、医薬品の管理・供給、情報の収集・提供を行っています。
患者様に安全で安心してお薬を服用いただくために、お薬を一包化し、わかりやすく服用しやすい状態にすることによって、患者様のコンプライアンス向上に寄与しています。

▶ 今後の目標

- ・ 医薬品の有効に使用されるよう適正使用に努めます。
- ・ 薬剤の多剤投与「ポリファーマシー」軽減に努めます。
- ・ チーム医療の推進に努めます。

専門医資格一覧

水野 正昇 院長
【専門医】日本整形外科学会 整形外科専門医

伊東 慶一 副院長
【指導医】日本リハビリテーション医学会 リハビリテーション科指導医
【専門医】日本認知症予防学会 認知症予防専門医

成瀬 隆裕 整形外科部長
【専門医】日本整形外科学会 整形外科専門医

大島 祐之 整形外科医長
【専門医】日本整形外科学会 整形外科専門医
【認定医】日本整形外科学会 認定運動器リハビリテーション医
日本スポーツ協会 公認スポーツドクター
日本整形外科学会 認定スポーツ医
日本医師会 認定産業医